

自動車総連 Tさん

北方領土問題について、戦後からロシア（旧ソ連）による軍事侵攻により不法占拠・支配が、78年間続いている実態を今回の平和行動へ参加することで肌で感じる事が出来、報道では知り得ない情報を改めて理解を深める事ができた。実際の元島民の鈴木さんの想い、訴えをこの耳で聞き、78年経過した今でも、強い想いがあること、そしてこの問題を解決出来ないまま、故郷へ戻ることもできずに、生涯を終えた人の悔しい気持ちを考えると、この問題をこのまま風化させるべきではないと、改めて強く自分自身が感じました。

納沙布岬での平和集会を通じて、多くの方が北方領土の返還、平和を強く望み、行動を起こし、78年前の生活を取り戻そうと努力しているのが伝わってきた。

終戦後に、一方的に島を追われ、生活を一瞬にして奪われた事実があること。このような軍事進攻、不法占拠は決して許されるものではない。

納沙布岬から最も近い貝殻島へは、わずか3.7キロの距離と、本当に目と鼻の先で、その中間地点の暫定国境の灯台へロシア国旗を掲げ、外壁塗装をして、明かりを入れるなど実行支配をにおわせる動きを強めるなど、目の前で見えているはずの島が物凄く遠い島だと感じました。

当時の住民17291名のうち、78年経過した現在、1/3まで島民が減るなか、元島民の方々が、一日も早く島へ帰り、お墓参りなどをしてあげたい、後世に残したいという気持ちが痛いほど伝わってきました。

北方領土は、日本人の元島民の手によって苦勞して開拓した島なので、一日も早い北方四島の返還と、平和的解決を望むと共に、自分で出来る行動をするべきだと強く感じる事が出来、行動しようと思います。

自動車総連 Uさん

4つの平和行動のひとつ「2023平和行動in根室」が9月9日～10日にかけて開催されました。全国の連合構成組織をはじめ地方連合会や共催団体・後援団体など多くの仲間の方が根室の地に集結されとても大きな規模での開催に驚きました。

私自身、北方領土問題と言われても元々日本の領土だったがロシアに不法に占拠されたくらいの知識しかありませんでした。第2次世界大戦後、ソ連軍に一方的に不法占拠をされ当時の北方四島の住人約17000人が故郷を失われ追い出されていました。当時の強制退去を経験された方の体験談を聞き故郷に帰りたくても帰れない、島へ戻り親族・先祖の供養をしたくてもできないなど理不尽さや悲痛な思いがよく分かりました。日本最東端の納沙布岬から見える歯舞群島の一つである貝殻島は距離にして3.7kmで肉眼にて島が見え近くにありますが北方領土返還を訴え78年が経過している現在、あまりに遠くにある島だと感じました。当時を知る方も高齢化が進み1日でも早く北方領土返還を求め中、昨今のロシアとウクライナの紛争により日ロ平和条約の締結・北方領土返還は遠のくばかりです。今回の平和行動に参加して肌で感じた事を一人でも多くの方に知ってもらう為に家族や友人、職場の方や地域の方などに伝え多くの仲間を増やしていく事が私にできる事と考え行動していこうと思いました。

UAゼンセン Iさん

私の中の北方領土問題は遠い昔に教科書で習ったことがある問題という程度で、正直身近に感じることはありませんでした。しかし今回の平和行動in根室及びノサップ集会や研修を通して、「北方領土」の生い立ちや、現状、さらには課題について詳しく知ることができました。ウクライナの侵略も北方領土問題に関連しているということも驚きました。国同士で解決することが難しい状況においても、国民が声を発し続け、その重要性を訴え続けることにより、未来へ希望を繋ぐことが何よりも大事だと痛感させられました。元島民の方々の平均年齢が87歳を超え、残された時間は多くないと思いますし、自分自身も今回の貴重な経験を生かし、一刻も早く解決できるよう、声を発し続ける一員になりたいと思います。

UAゼンセン Sさん

今回、2023平和行動in根室（9/19～9/11）に参加させていただきました。

北方領土は、日本固有の領土であり歴史的にも事実として認識されている。しかし、実際は第2次世界大戦終息直後から、旧ソ連による不法占拠・実効支配が続いている。北方領土返還運動の取り組みが行われていることは知識として持っていたが、実際に平和行動に参加させていただき、当時の状況や経緯など学習をする中で、戦後70年以上経過する中で、故郷へ戻ることのできない元島民の方々の苦しみや悔しさを肌で感じ、一刻も早い返還を実現させなくてはならないと強く感じた。元島民の方々の平均年齢も87歳を超え、残された時間は決して長くはない。今回平和行動に参加し、得た知識や経験を多くの方に伝え、運動の輪をより広げていくことで、一刻も早い返還を実現できるよう行動を起こしていきたいと思う。